

Japanese Patent Laid-Open Publication No. 63-55042

Laid-Open Date: March 9, 1988

Japanese Patent Application No. 61-196597

Filing Date : August 22, 1986

Inventors : Kenichi CHIDA

Yoshinori KAMATA

Applicants : Honshu Insatsu Shiki Kabushiki Kaisya

Kabushiki Kaisha Toshiba

## PACKING CONTAINER

A packing container of the present invention is a container for storing floppy disks, optical disks, etc. The packing container comprises a container main body (10), a casing body (24) inserted into the container main body (10), and a plurality of individual boxes (31) stored in the container main body (10). The container main body (10) includes a front board (11), one pair of side boards (12), (13) connecting to sides of the front board (11), respectively, through a folding line, a back board (14) connecting to the side board (12) or (13) through a folding line in one side and with an attachment piece (15) in the other side, inner flaps (16), (17) connecting to the side boards (12), (13) at the top and the bottom, ceiling boards connecting to the front board (11) and the back board (14) at the top, and bottom boards connection to the front board (11) and the back board (14) at the bottom. The container main body (10) has a breaking guide line (22) on the front board (11) and the both side boards (12), (13), and a hinge part (23) on the back board (14) extending from the breaking guide line (22). The casing body (24) has a cutout part (25) which is located in the area overlying to the front board (11) of the container main body (10). The individual boxes (31) have openings on the top.

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-55042

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)3月9日

B 65 D 5/48  
5/44  
5/54

1 0 1  
3 0 1

6540-3E  
6540-3E  
6540-3E

審査請求 有 発明の数 2 (全6頁)

⑮ 発明の名称 包装容器

⑯ 特 願 昭61-196597

⑰ 出 願 昭61(1986)8月22日

⑱ 発 明 者	千 田 建 一	東京都世田谷区世田谷1-46-17
⑲ 発 明 者	鎌 田 善 徳	神奈川県川崎市幸区柳町70 株式会社東芝柳町工場内
⑳ 出 願 人	本州印刷紙器株式会社	東京都江戸川区南篠崎町1328番地
㉑ 出 願 人	株 式 会 社 東 芝	神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
㉒ 代 理 人	弁理士 芦田 直 衛	

明 細 書

1. 発明の名称

包 装 容 器

2. 特許請求の範囲

前板の両側に折線を介してそれぞれ側板を接続すると共に、前記側板のいずれか一方に折線を介して接合片が延設された背板を接続し、さらに側板の上下には各々内フラップを連設し、前板及び背板の上下には天板及び底板を連設し、かつ前板及び両側板には開破用破断線もしくは切線を設け、一方背板には前記破断線もしくは切線に連続するヒンジ部を設けてなる容器本体と、

この容器本体の内側に装入され、容器本体の前板に重合する部分に切り欠きが形成された枠体と、この枠体を装入した容器内に収納される上面が開口した複数の個装箱とを備えた包装容器。

2 容器本体の天板の一方には係止用舌片が、他方は前記舌片と係合する係止用スリットが形成されている特許請求の範囲第1項記載の包装容器。

3 前板の両側に折線を介して側板を接続すると共

に、前記側板のいずれか一方に折線を介して接合片が延設された背板を連設し、さらに各側板の上下には各々内フラップを連設し、前板及び背板の上下には天板及び底板を連設し、かつ前板及び両側板には開破用破断線もしくは切線に連続するヒンジ部を設けてなる容器本体と、

この容器本体の内側に装入され、容器の前板に重合する部分には切り欠きが形成されてなる枠体とを備えた包装容器。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は例えばパーソナルコンピュータ、ワードプロセッサ等に用いるフロッピーディスクや、光ディスク、光ディスクカセットの収納用として有用な包装容器に関する。

〔従来の技術〕

周知のようにフロッピーディスク、光ディスクなどは、パーソナルコンピュータ、ワードプロセッサ等の記録媒体として用いられるもので、円盤状で材質により軟質及び硬質のものがある。そし

て、前記フロッピーディスク等は通常はコンピュータ等の機器と分離して保管され、必要に応じて機器内に挿入して使用される。

ところで、フロッピーディスク等はその性質上磁気をさけ、また倒がつかないように保管されなければならない、そのためパッケージは堅固であることが望まれており、従来形のパッケージとしては、第7図に示すようなものが知られている。このものは紙製あるいは合成樹脂製で、両本体1と蓋2とからなり、両本体1内にフロッピーディスク等の収納物Fを多数枚収納して蓋2を被せておき、必要に応じて蓋2を取外し、フロッピーディスク等の収納物Fを取出す構成となっている。

#### 〔発明が解決しようとする問題点〕

ところで、上記のようなパッケージは、両本体1と蓋2が別途に形成されており、頻繁に収納物取出すような場合、その度に蓋2を開閉しなければならない、蓋の締め忘れあるいは蓋の紛失と云うことがたびたびあった。またフロッピーディスク等の収納物の高さとおパッケージの高さが同

箱とからなるものである。

#### 〔作 用〕

本発明の包装容器は側板内にフロッピーディスク等を収納し、前記フロッピーディスク等が収納された側板を更に複数個容器本体内に収納するものである。

そして、メーカーにおいては、前記側板を容器本体の天面から挿入して天板を閉鎖して包装出荷し、購入者は前板及び側板に形成した破断線もしくは切線を開破して容器本体を蓋部と身箱とに2分して開閉自在容器として使用する。この時、容器本体には枠体が装入されており、しかも枠体の前枠部分には切り欠きが形成されているので、前記切り欠き部分から直に側板をつかむことができる。また蓋部と身箱は前記枠体部分の装入により、印刷形式に開閉することができる。

また容器本体に挿入された枠体により側壁、前板、背板、底板部分は少くとも二重構造となり、容器の強度がアップする。

一であり、フロッピーディスク等をパッケージから取出す際にフロッピーディスクをつかむことが容易でなく使い勝手が悪いという難点がある。本発明は上記難点を解決するためになされたもので、蓋を紛失するおそれがなく、また、収納物を容易に取出すことができる包装容器を提供することを目的としている。

#### 〔問題点を解決するための手段〕

本発明は上記目的を達成するために、前板の両側に折線を介して側板を接続すると共に、前記側板のいずれか一方に折線を介して接合片が延設された背板を連設し、さらに各側板の上下には各々内フラップを連設し、前板及び背板の上下には蓋板及び底板を連設し、かつ前板及び両側板には開破用破断線もしくは切線を設け、一方背板には前記破断線もしくは切線に連続するヒンジ部を設けてなる容器本体と、この容器本体の内側に装入され、容器の前板に重畳する部分には切り欠きが形成されてなる枠体と、前記枠体が装入された容器本体内に収納され、上面が開口した複数個の側板

#### 〔実施例〕

以下、図示の実施例に基づき本発明について具体的に説明する。

第1図は本発明の一実施例を示す組立完成図、第2図は同上の開破状態を示す図であって、第3図乃至第5図に示すような台紙を引合せて形成される。

先づ第3図は容器本体10の展開図であって、前板11の両側には折線を介して、それぞれ左側板12及び右側板13が連設されると共に、右側板13には折線を介して背板14が連設され、さらに前記背板14には折線を介して接合片15が延設されている。また両側板12、13の上下には折線を介して天板用内フラップ16、16、底板用内フラップ17、17が連設され、前板11及び背板14の上面には折線を介して、天板18、18が、また下面には折線を介して底板19、19が連設されると共に、一方の天板18の上縁中央部には係止用舌片20が、また他方の天板18の下縁中央部には、前記舌片20と係合する係止用スリット21が形成されている。なお、前記舌片20

の基部は第3図に示すように両端が切り欠かれ、肩部20a、20aが形成されると共に、舌片20の最大幅Hは、係止用スリット21の幅H'よりも若干長めに形成されている。

さらに、前板11および両側板12、13には開破用破断線22が刻設され、一方背板14には前記破断線22に連なるヒンジ部23が形成されている。

次いで枠体24について説明すると、第4図に示すように、頂部にU字形の切り欠き25を有する前枠26の両側に折線を介して側枠27、27を連設すると共に、前記側枠27の一方には折線を介して背枠28が連設され、さらに前記背枠28の側縁には折線を介して接合片29が、また下縁には折線を介して底枠30が連設されている。

一方、枠体24が組合配設された容器本体に挿入する個装箱31であるが、第5図に示すように、頂部にU字形の切り欠き32が形成された前板33の両側に側板34、34を折線を介して連設し、前記側板34の一方には折線を介して頂部にU字形の切り欠き35が形成され、前板33と同形で側縁に接合片36

るようにして装入する。

最後に個装箱31であるが、両側板34、34を前板33側に立ち上げたのち、背板37を前板33上面に折り上げ、接合片36と側板34を重ね接合し、底板38に形成した舌片39を内側に折り曲げ、背板37内側に挿入重合させて個装箱31を形成する。

そして、この個装箱31には、被包装物F、例えばフロッピーディスク、光ディスク、光ディスクカセット等の板状物が収納される。

被包装物Fは、第6図に示すように枠体24が挿入された容器本体10内に天面から収納され、天板用内フラップ16、16及び天板18、18を重ねし、舌片20を係止用スリット21に無理嵌めして、舌片20の肩部20a、20aとスリット21の端部を係合ロックさせて天面を閉鎖する(第1図参照)。このようにして、フロッピーディスク等の被包装物を梱包した包装容器はメーカーから出荷される。購入者はこのパッケージの前板及び両側板に形成した切線部分を破断して容器本体を連続した状態で蓋部と身箱に二分し(第2図参照)容器内からフロ

が延設された背板37が連設されている。

さらに前板33の下縁には折線を介して底板38が連設され、かつ底板38には折線を介して舌片39が形成されている。また両側板34、34の下縁には折線を介して底板用フラップ40、40が連設されている。

上記のような構成を有する本発明の包装容器を組立てるには、先づ第3図に示す容器本体10の両側板12、13を前板11側に立ちあげ、ついで背板14を前板11上に折り曲げた上で、接合片15と側板12を接合し、筒状体を形成する。ついで前板11下端の底板19、両側板下端の底板用内フラップ17、17、背板14下端の底板19を順次内側に折込んで内側に押圧し、ロックボトム式に底面を閉塞する。

次いで、第4図に示す枠体24の両側枠27、27を前板26側に立ち上げ、次いで背枠28を前枠上に折り曲げた上で、接合片29と側枠27を接合させ、最後に底枠30を内側に折り曲げて、上端が開いた枠体24を形成した上で、前記枠体24を容器本体10内に、前枠26が容器本体10の前板11内側に位置す

フロッピーディスク等の被包装物を取出す。また蓋部を閉鎖する時には、枠体を介して蓋部と身箱を印刷式に組合せることができる。このようにして、購入者は、この包装容器をフロッピーディスク等の被包装物の収納容器として繰り返し使用することができる。

なお、前記実施例においては、容器本体の天板18に舌片20を設け、被包装物Fを収納した個装箱を容器本体に挿入して、前記舌片20を係止用スリット21に無理嵌めして天面をロックしたが、舌片20を形成することなく、糊貼り等の方法で容器本体の天面を閉鎖することも、もとより可能である。

#### [発明の効果]

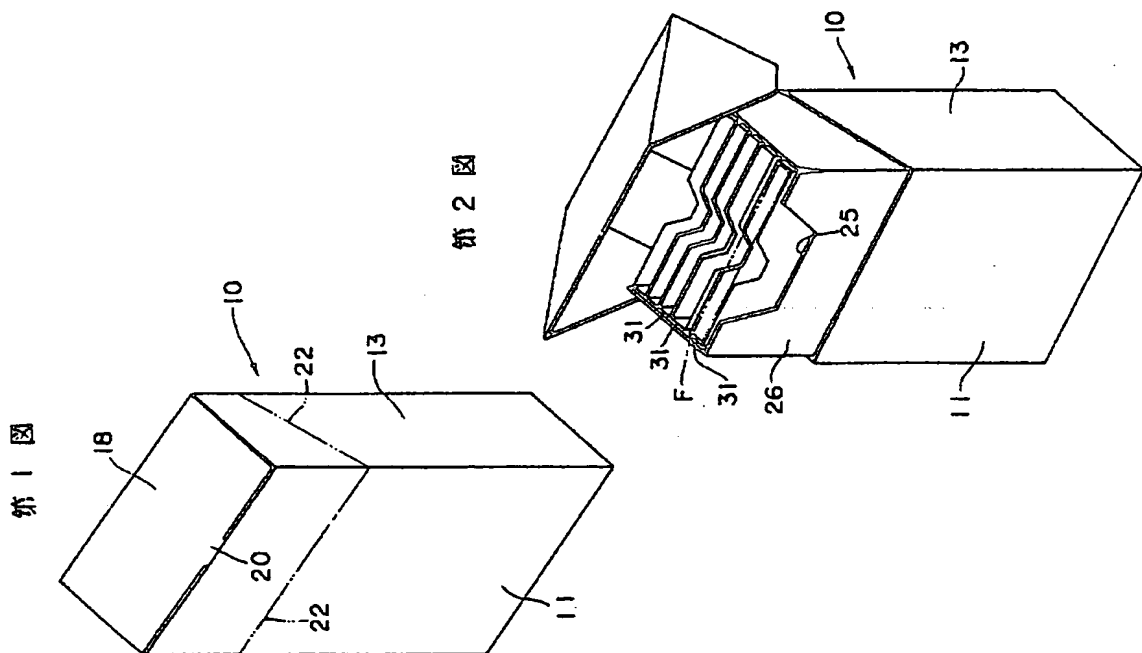
本発明は、上記のような構成としたので、包装容器を堅固なものとするのが可能で、収納物を外圧から保護し、傷がついたりすることがない。また身箱と蓋がヒンジで連結されているので、蓋の紛失と云うことがなくなり、しかも蓋と身箱は枠体を介して印刷式に開閉することが可能で、しかも身箱と蓋とのズレを防止して両者は密嵌され

ると云う効果を得る。また、棒体の前面に切り欠きが形成されているので、該部分から手指で簡単に、フロッピーディスク等の被包装物をつかむことが可能で取出しが容易である。

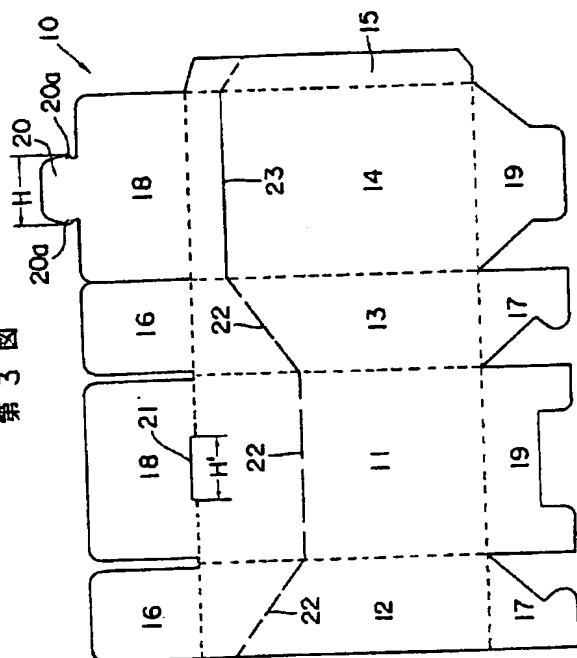
#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例を示す組立完成図、第 2 図は使用状態を示す斜視図、第 3 図は容器本体の展開図、第 4 図は枠体の展開図、第 5 図は個装箱の展開図、第 6 図は分解組立図、第 7 図は従来形を示す図である。

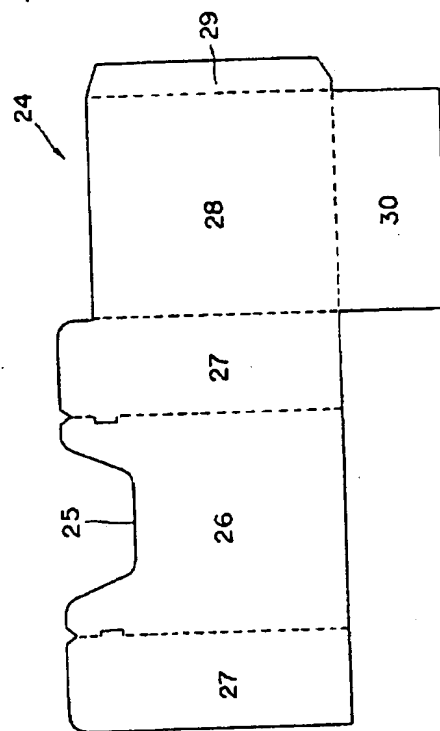
10… 容器本体、11、33… 前板、12、13、34… 側板、  
14、37… 背板、15、29、36… 接合片、16… 天板用  
内フラップ、17、40… 底板用内フラップ、18… 天  
板、19、38… 底板、20… 舌片、21… 係止用スリッ  
ト、22… 開破用破断線、23… ヒンジ部、24… 棒体、  
25、32、35… U字状切り欠き、26… 前棒、27… 側  
棒、28… 背棒、30… 底棒、31… 個装箱、F… 被包  
装物。



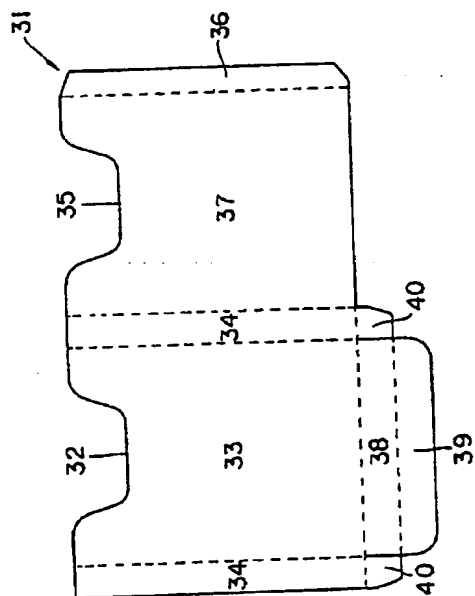
第 3 図



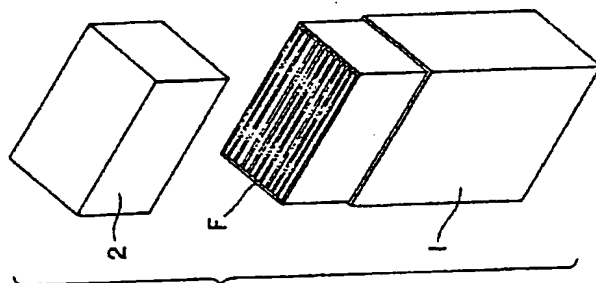
第 4 図

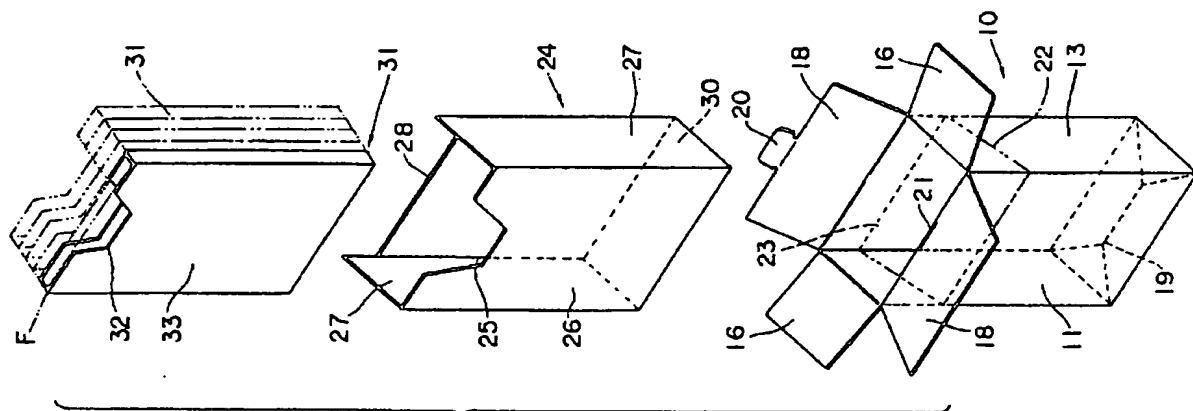


第 5 図



第 7 図





第 6 図